

最上階にある広々とした組み立て仕上げ場



中2階にある加工場には立軸、ルーター、旋盤などが並ぶ



マカロニデザイン



洋家具発祥の地としての横浜にこだわる野崎社長

都市部では数少なくなっている町工場が、かつて横浜ラシックを生んだ元町近くに

新たに誕生した。本牧地区にもほど近い本郷町の閑静な一角。オーダー家具

横浜発祥のこだわり

神奈川県家具協同組合・神奈川県家具工業組合に加盟するアレックス(細貝昭一社長)とマカロニデザイン(野崎義嗣社長)が、昨年从今年にかけて相次いで新工場を開設した。両社の新工場を訪ね、社長に今後の抱負を聞いた。

家具補修作業を集約

アレックス



「建築物の補修は受けきれないほど入ってくる」という細貝社長

家具修理、椅子の張り替え、建築物の補修など、高度な技術を持つアレックス。昨年10月、鶴見川に面した敷地に新

本社・工場(横浜市都筑区川和町)をオープンした。旧工場では5つの場所に分かれていた作業を、1カ所に



新工場の広いスペース。塗装や張り替えなど現場の作業の連携が良くなった(写真上)小筆を使った細やかな補修作業(写真右)



具を主力としているマカロニデザインは4月、ここに新工場を開設した。建築面積424平方メートル。創業地の山元町にあった工場の約2.2倍に当たる。

工場は中二階のある2.5階建て。道路に面したファサードには、約30平方メートルのショールームが年内にオープンすることになっている。オリジナル家具や各地の小物を集めて展示される予定。

ショールームに注文に訪れた顧客は、椅子やソファなどオリジナル家具を見ながら、同社の技術とデザインを直接目で見て触れて確認できる。さらに隣接する工場で、ものづくりを実際に見られる体感型ショールームになる。

工場では、木取り、加工、椅子張り、塗装まで全ての工程を、野崎義嗣社長含めて4人の職人でまかなう。移転に際してワイドベルトサンダーなど新しい機械も導入された。

「きちんと中身の活動をしてほしい。限られた予算と時間、スペースのなかで、納得

補修用具が棚にすらりと並ぶ



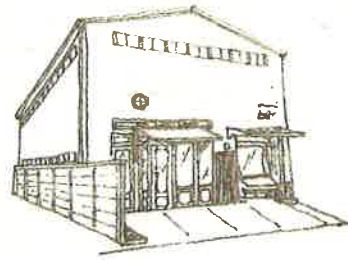
集約することによって「作業の効率が4割近くアップした」と細貝昭一社長は笑顔で話す。建坪は160坪から360坪に広がった。

住宅出張補修からスタートした同社は、高い技術力が評価され、家具修理の依頼も入るようになった。現在の、売り上げ構成は建築物の出張補

できる最高のパフォーマンスを提供する」のが野崎社長のモットー。秋山木工、旭川家具の匠工芸、さらにドイツ、デンマークのPPPMプライ社などで武者修行をして34歳で独立した。

「この人につかってほしい」と思っていたのが注文家具屋の生命線」という野崎社長は、7年目の新工場開設を機にスタッフの増員も考え、「中味の詰まった職人を育てていく」という。

工場内には従業員たちの食事をまかなう食堂の隣に宿泊所もある。「海外からの渡り職人たちも泊まれるようにしたい」と夢が膨らむ。



年内にショールームを開設して「さらにお客さんとの距離を縮める」という

修6割。家具などの修理は4割を占めている。特に家具の修理件数は毎年増えており、前年比で約2割アップが続いている。

一人一人の技術がものを言う補修の世界で果たして効率化は可能か。その答えが、今回の工場移転だ。張り替え、塗装、組み立てを集約することによって、各工程間の連携を良くして、例えば「塗装前に張り替えるか、張り替え前に塗装するか、柔軟に判断できるようになった」という。人材は新卒からの採用を中心に時間をかけて育成している。

現在、力を入れているのは多角展開。積み上げてきたノウハウを生かして「創作家具」に取り組んでいる。例えば、ダイニングテーブルの天板をカットしてコーヒーターブルに作り替えるといった作業だ。さらに高度な技術を駆使してリヤドロ・マイセンなどの高級陶器人形の修復も手掛けている。「アレックスならではの特徴を出していかないと置いて行かれる」と細貝社長は次の戦略を練っている。